

---

# 恋愛の意味

KIZUKA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋愛の意味

### 【ZPDF】

201904

### 【作者名】

KINUKA

### 【あらすじ】

お弁当屋さんで働く高校2年生の女の子はやかの恋愛。はやかは恋愛感が変化していく様子を描いていきます。

「愛してる」

高校生にとってこの言葉に意味はあるのだろうか。

大人にしてみれば、子供が深く考えもせずに発するただの言葉にしか聞こえないかもしない。

でも、はやかにとって彼氏からもうれる最高の言葉としてこつも胸にしまっていた……。

クリスマスまであと十日。

そんな日に、これまで「愛してる」と言つた言葉に世界で……とか、一番・・・などの修飾語をつけて気持ちを伝えてくれた彼が、恋人達にとって一年に一度の最高のイベントの直前に別れを告げてくるなんて思つてもみなかつた。しかも理由は「なんとなく・・・」これまでの思い出をぶち壊す一言だつた。

高校2年生になつた五月からつき合つてはじめ、十日後のクリスマスで半年だつた。

半年記念も兼ねたクリスマスプレゼントを買うために、夏休みからお弁当屋さんでアルバイトをしていたのに無駄になつた・・・いや社会経験をしていると思えば無駄とはいえないかもしない。しかもプレゼントを買う前で良かった。と、はやかは意外に冷静に別れについて考えていた。

思えば、つき合つてたつた半年しかたつていないし、中二の頃からいつもクリスマス前に彼氏にフラれていたので、今回も・・・と心のどこかでフラれる準備をしていたのかもしない。

何とも寂しい心になつてしまつたものだ。そんなことも考えていた。

「あー高一のクリスマスも一人かあ・・・」はやかはとうとう口にしてみた。ついでにため息もついてやつた。

「まあいつも通りか・・・バイトでもするかな。これははやめるのも

考え直すかね」

アルバイトを始めたのはクリスマスプレゼントを買うためだつたので、来月にはやめようと考えていた。

「ああつてか今日バイトだ」はやかは時計を見た。十六時四十五分。はじまる十五分前。

「やばーい遅刻する」

アルバイト先のお弁当屋さんは家と学校の中間地点あたりで徒歩で五、六分の所にある。つまり走れば間に合つ。

はやかは急いでスウェットのズボンにロンティという部屋着と言つてもおかしくない格好に冬はコートに深い赤のマフラーを着けて行く。

十六時五十分。

「ぎりぎり行けるか」時計を見ながらつぶやいた。

「いつてきまーす」誰もいない家に鍵をかけながら言つた。

お弁当屋さんに着き、正面のガラス引き戸を覗くとカウンターでパートの陽子さんが大学生らしき男の人を接客していた。

ガラガラと入り口のガラスの引き戸を開けると「今日もぎりぎりやね~」とイヤミ混じりの冗談口調で陽子さんに言われた。それと同時に大学生らしき男の人もこっちを見て小さく笑つた。

一瞬自分の中の時計が止まっているのを感じた。

恋に恋する（前書き）

はやかと加奈がどんな女の子かを徐々に明らかにしてこります

## 恋に恋する

「おひはより」学校前の交差点で加奈が声をかけてきた。

「おひはより」

笑顔をつくりてみせた。

「なんかいつもと違うじゃん」加奈は期待はずれもいこといだとうような意味を含めた言い方をした。

「なにが」

「なにがって・・・いつも失恋の後は決まっていかにも昨日の夜は泣き明かしましたよって顔して来るくせに」

「そうでしたっけ」

「あ～っとほけるんだ。もう今後はやかの話きいてやんないぞ」

「いや～『ごめんそれはカンベンして』

加奈はいつもはやかが泣きながらする失恋話をよしよしと慰めながら聞いてくれる。

加奈とは小学校からの親友でお互いのことは何でも話す。 今回の失恋も別れを告げられてすぐ加奈に電話したが、すぐに留守番電話につながり、取り合えず「かあ～なあ～」とメールなら（泣）と付くようなメッセセージを残しておいた。結局加奈からの折り返しがあつたのはアルバイト中だつたらしく、バイト後に携帯電話を見ると加奈もまた留守電に「どお～しいたあ～」と同じ口調（加奈の場合は（笑）を含んでいそうな）でメッセセージを残してくれていた。すぐに折り返そうとしたが加奈が今日は塾があるので思いだしたので、メールで『明日話すね（泣）』とメッセセージだけ送っていたのだ。加奈からしてみれば会つた瞬間にはやかに「かあ～なあ～聞いてよお」と泣きつかれると思つていたので、今朝のはやかの反応はまさに期待はずれだった。

はやかは小学生の頃から文武共に人並み以上にできた。特に武（運動）に関しては同じ年の女の子と比べてば抜けており、中学の頃

はバスケットボールの県の選抜メンバーに選ばれるほどだった。そんな経歴を持ちながら高校生になつてからは部活にも入らずに勉強に専念しており2年生の2学期の段階では学年10番以内の成績だつた。

加奈はなんでもできるはやかが失恋後に自分を頼りにしてくれるのが少しうれしかつた。

「それにしてもこんな器量良し代表のはやちゃんをフルなんてねえ。なんて言われてフラれたんだい」

「なんとなくだつてさ」

「理由になつてないじゃん。はやかはそれで納得したの「よくわからない」

「よくわからないつて・・・」

「私好きじやなかつたのかも」

「えつ・・・どういうこと」

「別れを言われた時も、そなんだとしか思わなかつたんだ。これつて気持ちがなかつたつてことじやない」

「でもはやかが好きになつて告白したんじやなかつたつけ」「そなんだけど・・・でも別れを言われる瞬間まで好きつて思つてたよ。クリスマスプレゼントも考えてたし」

「なるほどね。はやかはいわゆる『恋に恋して』たんだね」

「何それ」

「つまり恋している自分自身が好きみたい。だから恋が叶つてしまふとその恋は終わりに向かっていくんだよ」

「ふう〜ん」はやかは加奈の言葉に妙に納得してしまつた。

なぜなら、はやかは加奈のようく表現はできなかつたがどうかもしれないと言つ感覺は持つっていた。それを加奈に言つてなんとなく思つていた事が確信に変わつたからだ。

「てことははやちゃんクリスマス暇つてことよね。レディース同士でカラオケでも行こうよ」

「あつごめん。バイト入れちやつた」



恋に恋する（後書き）

感想なんか頂けたらうれしい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0190k/>

---

恋愛の意味

2010年10月11日20時46分発行